

Ⅶ 単元指導計画（全 13 時間）

単元	時	本時のねらい	学習活動	評価規準	つまずきに対する指導・援助
1 何十でわる筆算	1	何十や何百何十を何十でわる計算をする活動を通して、10 をもとにして計算すれば、簡単な計算にできることに気づき、計算の仕方を説明することができる。	<p>〔問題〕 60 枚の折り紙を 1 人に 20 枚ずつ分けます。何人にわけられるでしょう。</p> <p>○ $60 \div 20$ 数直線をもとに立式の根拠を考える。</p> <p>〔課題〕 何十÷何十の計算の仕方を考えよう。</p> <p>○ 計算の仕方を考える。 ・⑩の数玉を使って考える。 ・10 をもとにして考える。</p> <p>○ $150 \div 30$ の計算の仕方を、10 をもとにして考える。</p> <p>【まとめ】 何十や何百何十を何十でわる計算は、10 をもとにして計算する。</p> <p>○ 評価問題</p>	10 を単位としてみて何十でわる計算の仕方を既習の除法を用いて考えている。 (数学的な考え方)	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図をもとに、いくつ分を求めるときは、わり算であることを確認する。 10 をもとにして考えられない児童→⑩の数玉を書いて、1 人分ずつ囲んでいくよう助言をする。 機械的に 0 を消して計算している児童→なぜ 0 を消したのか問う。10 が 6 こあることを確認する。
	2	「何百何十」÷「何十」を 10 をもとにして計算することを通して、あまりの大きさも 10 をもとにして考えればよいことに気づき、答えの確かめができる。	<p>〔問題〕 170 枚の折り紙を 1 人に 50 枚ずつ分けます。何人にわけられて、何枚あまるでしょう。</p> <p>○ $170 \div 50$、$17 \div 5 = 3$ あまり 2 あまりは 2 枚？</p> <p>〔課題〕 あまりのあるわり算のあまりの大きさを確かめよう。</p> <p>○ 計算の仕方を考える ・⑩の数玉を使って考える。 ・10 をもとにして考える。 ・確かめの式で考える。 $50 \times 3 + 2 = 152$・・・まちがい</p> <p>○ 答えの確かめをする。 $50 \times 3 + 20 = 170$</p> <p>【まとめ】 あまりは、もとにした数のいくつ分である。</p> <p>○ 評価問題</p>	10 を単位としてみて、「何百何十」÷「何十」で、あまりのある計算のし方を、既習事項を用いて考えている。 (数学的な考え方)	<ul style="list-style-type: none"> 10 をもとにして考えられない児童→⑩の数玉を書いて、囲んでいくよう助言をする。 機械的に 0 を消して計算している児童→あまりの 2 は、何が 2 こあるのかを問う。 わる数×商+あまり=わられる数の式で答えの確かめをすることで、あまりが正しいかを確認できるよさを強調する。
	3	2 位数÷2 位数を計算する活動を通して、既習の筆算の仕方と同じであることに気づき、あまりのない計算を正しく筆算でできる。	<p>〔問題〕 63 枚の折り紙を 1 人に 21 枚ずつ分けます。何人にわけられるでしょう。</p> <p>○ $63 \div 21$ 数直線をもとに立式の根拠を考える。</p> <p>〔課題〕 2けた÷2けたの計算の仕方を考えよう。</p> <p>○ 計算の仕方を考える。 ・①⑩の数玉を使って考える。 ・$21 \times \square = 63$ $\square = 3$</p> <p>○ 筆算の仕方を考える。 わる数を 20 とみて商をたてる。 たてる→かける→ひくの手順を確認する。</p> <p>【まとめ】 2けた÷2けたも筆算でできる。</p> <p>○ 評価問題</p>	2 位数÷2 位数の筆算のし方を理解している。 (知識・理解)	<ul style="list-style-type: none"> 数直線図をもとに、いくつ分を求めるときは、わり算であることを確認する。 答えが求められない児童→⑩①の数玉を書いて、1 人分ずつ囲んでいくよう助言をする。 わる数をいくつと見たかを書けない児童→四捨五入の仕方の掲示を見せる。 商が立てられない児童→わられる数の十の位で考えるよう助言をする。

2 (2けた) 小 (2けた) の筆算	4	2位数÷2位数を計算する活動を通して、既習の筆算の仕方と同じであることに気づき、あまりのある計算を正しく筆算でできる。	<p>【問題】 $87 \div 21$ の筆算のし方を考えましょう。</p> <p><input type="radio"/> 21を20とみて商の見当をつける。 商は4になりそう、あまりがある。</p> <p>〈課題〉 あまりのある2けた÷2けたの筆算のし方を考えよう。</p> <p><input type="radio"/> 筆算のし方を説明しあう。 <input type="radio"/> 答えの確かめをする。 $21 \times 4 + 3 = 87$</p> <p>【まとめ】 3けた÷1けたのときも、「たてる→かける→ひく」の手順で筆算できる。</p> <p><input type="radio"/> 評価問題</p>	2位数÷2位数であり、あまりのある計算を筆算でできる。 (技能)	<ul style="list-style-type: none"> 前時との違いを確かめる。 わる数をいくつとみたかを書けない児童→四捨五入の仕方の掲示を見せる。 商が立てられない児童→わられる数の十の位で考えるよう助言をする。 答えの確かめができない児童→掲示を見るよう助言をする。
	5 本時		本時の展開案参照		
	6	2位数÷2位数を計算する活動を通して、商が小さい時に1ずつ大きくすることに気づき、正しく計算することができる。	<p>【問題】 $85 \div 27$ の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p><input type="radio"/> 商の見当をつけると2 あまりが27より大きくなってしまふ。</p> <p>〈課題〉 見当をつけた商が小さい時には、どのようにすればよいか考えよう。</p> <p><input type="radio"/> 筆算の仕方を考える。 商を1大きい3にして計算する。 <input type="radio"/> 答えの確かめをする。 <input type="radio"/> 〇問題をし、計算の仕方をまとめる。</p> <p>【まとめ】 見当をつけた商が小さかった時は、1大きくして商をたてればよい。</p> <p><input type="radio"/> 評価問題</p>	2位数÷2位数の仮商(過小商)の修正のし方が説明でき、筆算でできる。 (技能)	<ul style="list-style-type: none"> わる数を30とみて商をたてる。あまりがわる数より大きいことを押さえる。 商を大きくすることができない児童→商の3に斜線をひき4をたてて計算するよう助言する。 ペア交流では、商が小さい時にどうするかを説明しあう。
練習	7	基本的な学習内容に習熟し、それを活用する。	<p>〈課題〉 今まで学習したわり算の問題に取り組もう。</p>	2位数÷2位数の計算ができ、それを活用して問題が解決できる。 (技能)	<ul style="list-style-type: none"> 筆算が苦手な児童→参考にできる掲示を指し示す。 自己採点させやり直しをさせる。
3 (3けた) 小 (2けた) の筆算	8	3位数÷2位数を計算する活動を通して、商が1位数になる場合の除法の筆算形式に気づき、正しく計算できる。	<p>【問題】 543枚の折り紙を1人に62枚ずつ分けます。何人にわけられて、何枚あまるでしょう。</p> <p><input type="radio"/> $543 \div 62$ わられる数が3けたになった。</p> <p>〈課題〉 3けた÷2けたの筆算のしかたを考えよう。</p> <p><input type="radio"/> 筆算の仕方を考える。 60とみて計算する。 商が大きすぎるので修正する。 <input type="radio"/> なぜ一の位にたつのかを説明する。 <input type="radio"/> 答えの確かめをする。 <input type="radio"/> 〇問題をし、計算の仕方をまとめる</p> <p>【まとめ】 わられる数が3けたでも、2けたのときと同じようにできる。</p> <p><input type="radio"/> 評価問題</p>	3位数÷2位数(商が1位数)の計算を筆算でできる。 (技能)	<ul style="list-style-type: none"> 商を十の位にたてている児童→54の中に62は入らないことを確認する。 9をたてて困っている児童→商を1減らせばよいことを助言する。 ペア交流では、商が一の位にたつ理由を説明しあう。

	9	3 位数 ÷ 2 位数を計算する活動を通して、商が 2 位数になる場合の除法の筆算形式に気づき、正しく計算できる。	<p>【問題】 $432 \div 18$ の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p>○ 前時と同じ、3けた ÷ 2けた 商のたつ位がちがう。</p> <p>【課題】 商が何の位に立つかを考えよう。</p> <p>○ 筆算の仕方を考える。 ○ 商がたつ位置について説明をする。 ○ 商がたつ位置について、前時とくらべながらまとめる。</p> <p>【まとめ】 わられる数の上 2 けたとわる数を比べれば、立てる位が分かる。</p> <p>○ 問題をし、一の位にたてる時も 3 けた ÷ 2 けたになっている計算や、商に 0 をたてる時の計算の仕方を確認する。 ○ 評価問題</p>	3 位数 ÷ 2 位数 (商が 2 位数) の計算を筆算でできる。 (技能)	<ul style="list-style-type: none"> 商を一の位にたてている児童 → 43 の中に 18 が入ることを確認する。 「ひく」の後で立ち止まっている児童 → 次は「おろす」「たてる」を繰り返せばよいことを助言する。 ペア交流では、商が十の位にたつ理由を説明しあう
4 大きな数のわり算の筆算	10	4 位数 ÷ 2, 3 位数、3 位数 ÷ 3 位数の除法の筆算形式を理解し、計算する。	<p>【問題】 $1768 \div 34$ の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p>○ 4けた ÷ 2けた</p> <p>【課題】 けた数が増えたときのわり算の筆算のし方を考えよう。</p> <p>○ 筆算の仕方を考える。</p> <p>【まとめ】 けた数が増えても、わり算の筆算のし方は同じ。</p> <p>○ 問題をし、百の位に商がたつ、商に空位がある、十の位に商がたつ、一の位に商がたつなど、気をつけることを明らかにする。 ○ 評価問題</p>	4 位数 ÷ 2, 3 位数、3 位数 ÷ 3 位数の計算 (技能)	<ul style="list-style-type: none"> 何の位にたてるかわからない児童 → 30 は 17 には入らない、176 には入ることを確認する。 大きな数のかけ算が苦手な児童 → 横にかけ算の筆算を書いてよいことを知らせる。
5 わり算のきまり	11	除法では、被除数と除数に 0 でない同じ数をかけても、被除数と除数を 0 でない同じ数でわっても商は変わらないことを理解している。	<p>【問題】 $600 \div 200$ の計算をしましょう。</p> <p>【課題】 $600 \div 200$ を工夫して計算しよう。</p> <p>○ 計算の仕方を考える。 ・ 100 の数玉を使って求める。 ・ $200 \times \square = 600$ $\square = 3$。 ・ 100 をもとにして考える</p> $\begin{array}{r} 600 \div 200 = 3 \\ \downarrow \div 100 \quad \downarrow \div 100 \\ 6 \div 2 = 3 \\ \downarrow \times 5 \quad \downarrow \times 5 \\ 30 \div 10 = 3 \end{array}$ <p>○ 問題</p> <p>【まとめ】 わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。</p> <p>○ 評価問題</p>	除法に関して成り立つ性質を理解している。 (知識・理解)	<ul style="list-style-type: none"> 100 をもとにして考えられない児童 → 100 の数玉を書いて、200 ずつ囲んでいくよう助言をする。 機械的に 0 を消して計算している児童 → なぜ 0 を消したのか問う。100 が 6 であることを確認する。 この関係からどんなことが言えそうか問う。

	1 2	<p>除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり、あまりの大きさを正しくとらえたりする。</p>	<p>【問題】 $200 \div 25$ を工夫して計算しましょう。</p> <p>○ 計算の仕方を考える。 ・それぞれ5でわって $40 \div 5 = 8$ ・それぞれ4倍して $800 \div 100 = 8$ ・それぞれ2倍して $400 \div 50 = 8$</p> <p>○ 評価問題</p> <p>〈課題〉 $4800 \div 500$ の筆算の仕方を説明しよう。</p> <p>○ 筆算の説明を考える。 ・それぞれ100でわって計算するから00が斜線で消されている。 ・100をもとにしているから消してある。 ・あまりは100が3こで300。</p> <p>○ 答えの確かめをする。 $500 \times 9 + 300 = 4800$</p> <p>【まとめ】 筆算でも100をもとにして、工夫して計算ができる。</p> <p>○ 評価問題</p>	<p>除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり、あまりの大きさを正しくとらえたりすることができる。 (技能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のわり算の決まりを使うことを確認する。 ・計算の苦手な児童→ わられる数とわる数が5でわることに気付かせる。 ・00を斜線で消してからたてる筆算の仕方を示し、なぜ00を消してあるかを問う。 ・あまりは3ではなく300である理由を問う。
<p>まとめの練習</p>	1 3	<p>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p>	<p>〈課題〉 今まで学習したわり算の問題に取り組もう。</p>	<p>2位数÷2位数, 3, 4位数÷2, 3位数, 何万何千÷何百の計算ができ、それを活用して問題が解決できる。 (技能)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆算が苦手な児童→ 参考にできる掲示を指し示す。 ・自己採点させやり直しをさせる。